顎変形症 上下顎骨形成術パス

病棟　　病室

氏名：　　様

患者さんには治療計画に基づいた医療を行います。

説明日：

月日	月　日( )	月　日( )：手術当日		月　日( )	月　日( )	月　日()～月　日()	月　日( )	月　日( )
イベント	入院日	手術前	手術後(ICU入室)	術後1日目	術後2日目 ICU⇒病棟へ	術後3～6日目	術後7日目	術後8日目：退院
目標	・手術の必要性が理解でき、準備ができる		・創部に問題がない ・口腔内の清潔が保てている	・誤嚥がない ・疼痛のコントロールができている		・創部に問題がなく、経口摂取できる ・口腔内の清潔が保てている	・疼痛のコントロールができている ・日常生活の注意点がわかる	
検査	・身体測定 ・検温をします(毎日)	・弾性ストッキングを履き、手術着に着替えます	・酸素マスク ・心電図モニター ・顎創部の管 ・経管栄養の管 ・尿の管 などが装着されています	・採血、レントゲン		・術後5日目：採血		
処置					・創部の洗浄、顎間ゴム交換をします	・出血量に問題がなければ顎創部の管が抜けます		
点滴 内服	・持参薬を確認します	・点滴を開始します	・抗菌薬、脱水予防、痛み止めなどを点滴します ・口周りの乾燥を防ぐため、軟膏を塗布します			・術後3日目まで点滴があります。水分と食事が摂取できるようになったら、点滴の針を抜きます ・点滴の針が抜けた後は、痛み止めは内服薬で投与します		
食事	・食事がでます	・医師の指示に従ってください	・医師の指示により、飲水できるようになります ・食事はとれません	・鼻から入っている経管栄養の管から流動食を開始します	・経管栄養の管からの流動食	・顎創部の管が抜け、経口摂取の許可が出たら経管栄養の管を抜き、食事(流動食)を開始します	・状態に応じて食事形態を変更します ・術後７日目に栄養士から栄養指導があります	
安静度	・病棟内でお過ごしください		・ベッド上安静です	・看護師と一緒に、病棟に戻ります ・術後の初回歩行は看護師が一緒に行います		・病棟内でお過ごしください		
排泄		・病室を出発する迄に済ませてください	・尿の管が入っています	・問題なく歩行ができれば、尿の管を抜き、歩いてトイレに行けます ・ふらつきや移動に不安がある方は、看護師が付き添います				
清潔	・シャワー浴可です	・シャワー浴はできません		・体を拭きます		・状態によりシャワー浴可です		
歯磨き・術後の注意点と口腔ケア	・いつも通り歯磨きをしてください	★歯磨きは、手術前までに必ず済ませてください	★医師の指示に従って、歯磨きをしてください(一人で難しい時など、必要時看護師がお手伝いします) ★顎間固定後は、歯科衛生士による口腔清拭指導があります ★顎間固定中は歯磨きが難しくなり汚れが残りやすく、虫歯や傷口の感染につながります。歯磨き指導を受け、しっかりと歯磨きをしましょう **【顎間固定について】** ・下の歯と上の歯をワイヤー又はゴムで固定します。その間は口を開くことができないので、会話がしづらくなります ★ワイヤーがあたって痛いときは看護師に伝えてください ・吐き気が生じた際には顎間ゴムを切除しますので、すぐに看護師をお呼びください ★顎間固定中は嘔吐すると窒息の危険があります。**固定を外すニッパーは、すぐに使える所に置いてください** (ニッパーは、入院後お渡しします)				**【顎間固定解除後】** ★固定により、筋肉が硬くなり口を大きく開けられません。医師の指示で口を開く練習を行います ★食事の硬さは、医師の指示に従ってください ★口が開き、噛む時に痛みがなくなってきたら、徐々に普通の食事に戻していきます	
説明	・医師より:治療について ・麻酔科医より:麻酔について ・看護師より:入院生活について ★飲水や流動食には、ストローがあると飲みやすいので、ご持参ください	・コンタクトレンズ、時計、アクセサリー類は、すべて病室で取り外しておいてください	【手術後の症状】 ・顎や口周りのしびれや腫れが生じることがあります。個人差がありますが、徐々に改善することが多いです ・痛みや吐き気が生じた際は、我慢せずに看護師まで伝えてください。適宜、薬にて対応します ・退院に向けて、創部の管理や歯磨きの方法、日常生活の注意点等を適宜説明します。不明点があれば遠慮なくお声がけください					・次回の外来予約票をお渡しします。予約票を確認し、受診してください

患者さんの状態により、スケジュール内容が多少異なる場合があります。経過はその都度、個別にご説明します。